



人は長い年月の間に、趣味嗜好が変わったり、物の考え方が変わったりし、若い時には仲が良く、話題が付きなかったカップルも、次第に会話時間が減り、好きなタレントやテレビ番組も違うようになってきます。共通の話題や趣味が減ることから、家庭の団らん時間さえ、気まずい雰囲気になる家もあります。もちろん夫婦だけでなく、年齢が大きく離れた親子の間では、より共通の話題はなくなります。

子供の成長とともに、最愛の妻や子と会話が減り、コミュニケーションがめっきり減ったと感じる家庭にとっては、犬の存在はまさに救世主となります。好きな番組や好きなタレント、好きな音楽が変わっても、『犬が好き』という感覚は年代、性別を超えて、共通しているからです。自宅に戻っても、まっすぐ自分の部屋に行ってしまう子供、親と一緒に買い物や旅行には行きたくないという子供、「ただいま」と帰宅してもテレビから目を離そうとしない妻、どんな家庭でも居間に一頭の犬がいるだけで、一転して劇的に共通の話題が生まれるのです。帰宅したご主人から「今日の犬の散歩はどうだった？」と聞かれた奥さんは、その日に会ったすべての出来事をご主人に話します。

犬が居間にいることにより生まれる効果はもうひとつ。単なる年代を超えたコミュニケーションの復活だけでなく、私たちが忘れかけている人を愛し、愛されるといった感情を思い起こさせてくれることにあります。犬はその生涯を通して、愛情を追い求める動物であり、愛情を求める強い気持ちは時には生きるために必要な食欲さえも上回る動物なのです。そんな動物が日常的にすぐその自宅の居間にいることで私たちはいつも人を愛し、愛されることを意識させられます。そのことは、私たちが寛大で優しい心を持つ人間に育ててくれます。愛を感じられる生活が習慣になっていくのです。愛犬を迎え、家族全員で大切に育てている家庭にとって近年話題になりつつある熟年離婚などという言葉は無縁のものになるはずなのです。ただし、犬は魔法使いではありません。ペットショップに買ってさえくれば、家庭のすべての問題が解決するわけではありません。大切なのは、犬との愛情豊かな暮らしを通して、あなたの心の中にある人への優しさや愛情を周囲の家族に伝えることにあるのです。

No.4 2020年9月

NPO 法人ワンワンパーティクラブ 三浦 健太 著